
偽物の雨

kei---kuma.T

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

偽物の雨

【Zコード】

Z3852Z

【作者名】

kei---kuma・T

【あらすじ】

これは、黒色猫さんと葉をつなげてできた題名でつくれた短編
です。短いです。

～あらすじ～

少年達は、神の証の虹の秘密を知りたいとする。以上！

(前書き)

ちょっと宗教がからみますが・・・ま、キリスト教みたいな宗教がある異世界での話ということで

登場人物の名前は色々な宗教に絡んだ名前を付けています。面倒だしださい

「なあ、カイン。虹を作つてみないか?」

虹。それは大洪水によつて世界が滅亡した後に現れたことより、神の証とされた。

多くの研究者が虹について考え、実験していくが、全く答えが出なかつた。

この時代の人々は、本物の雨でしか虹はできないと信じていた。

偽物の雨で虹は、だれも作れなかつた。唯一作れたのは自然だけであつた。

滝の近くでしか見られない虹。それも稀にだ。

神の証を作りうとするが、一向にできない

俺の悪友、アベルが言った。カインンというのは俺のことだ
「おいおい、老人でもできないんだぜ。んなことできたらすげえよ」
「私は作ってみたいな」

そういつてきたのはアベルの妹、サラである。

「神の証を作れたら、私たちは認められたってことだよね
「そりやそりやただけどさ・・・」

俺は一度、試したことがある。先人たちの研究の結果、水がなんらかの役割を持つていると考えられている。

虹ができるのは雨の後、滝の近くだけだ。でも、それ以上のことは分かつていない。

だから、擬似的にその状況を作ろうとしたが、水は雨みたいにできなかつたし、小さくすることもできなかつた。水を口に含んでから噴き出してみても、できなかつた。

「偽物の雨ができるわけないだろ」

「でも、あそこでは見れるよ」

サラの言つあそことは、山の奥の滝の近くだ。でも、見れるときと見れないときがある。どうしてそういうことになるのかはわからな
い。

「とりあえず、羊番は弟たちにまかせて行こうぜ」
「・・・わかったよ。明日な」

次の日、「元の滝に行くことになつた。

～次の日～

「ふう、ここにくるのも3年ぶりだな」

山奥の滝のところに着いた。

前来た時には、父親と一緒にた。10歳の時まで、ショットチャウフ
ここで遊んだのを覚えている。

今日はまだ、虹は出ていない。
とりあえず、昼食をとった。

森の奥のため、太陽の光は届かない。すずしい風が吹いている。力
イン達の座る切り株の近くには多くの木々が並ぶ。

「出ないね」

「そうだな」

俺は淡々と答える。前、来た時には父親と一緒にた。だが、その
父親はけがをして、歩くのもままならない。俺は神に怒りを抱いて
いた

なぜ父さんを歩けなくするんだ。あんなに活発だった父さんを

父親は戦争で強制的に軍に入れられた。実戦前に、他の隊員からい
じめにあい、足を悪くしたのだ。ただ、戦争に反対しただけだった

のにだ。

そんな神の証なんて、いらない

「・・ン。・イン。カイン！！」

「なつ！」

顔が赤くなる。サラの顔が眼と鼻の先にあつた。

「ククッ。仲いいなお前ら。子供は何人作るつもりだい？」

「ち、違うよ…」「

いつもの光景だ。アベルが俺たちをからかう、そんな日常。戦争の痕跡なんて感じさせない。だが、彼らは父親をなくしている。俺なんかよりも不幸なはずだ。それなのに、神を信じている。俺には考えられない。

光が差した

それと同時に、虹が現れた。が、俺とサラがアベルに弁解していたために、その瞬間を見てはいなかつた。

「だから、違うって

「照れんなつて」

「そうだよ、違うよ。お兄ちゃん

「でもお前、毎日こいつの・・・」

「お兄ちゃんのバカ！」

「バカってなんでだ！？」

俺は滝の方を見る

「おーイアベル。こっちが本命だつただろ？こんな痴話喧嘩をするためにきたわけじやないだろ」

「おお、虹が出た。で、出る瞬間見た？」

「いや、見ていない

俺は偽物の雨で虹ができる確率は、父親の足が完全に治ると同じくらいの確率だと思つてゐる。

「なんだあ。そうか、帰るよ」

山は険しい。早く帰らないと熊にも出会ひしきなり、光がないために迷つてしまつ。俺たちは山を降りた。

ちなみに、親に無断で行つたため、俺たちのは酷く怒られた。

それから、俺たちは虹を作ろうとしたが、結局はできなかつた。

本物の雨と偽物の雨。ヒトはまだ、偽物の雨さえ作れない。

虹を作る方法が知られるよくなつたのは、それから数年たつた時のことである。

(後書き)

こんなもんです。一応完結。

黒色猫さん。どうでしたか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3852n/>

偽物の雨

2010年10月20日14時29分発行